

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-4-1	事業名	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担				
担当	総務局国際部交流課 伊藤 裕介 211-2032						
全体計画							
事業内容	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」は、姉妹都市であるミュンヘン市との友好関係を深め、会場を訪れた市民にミュンヘンの文化に親しんでいただくなど国際理解の促進を図るとともに、地元商店街との連携を深めながら、中心市街地のにぎわい創出に資するため実施している。本事業では、「クリスマス市」を開催するため、本市、商工会議所、都心部商店街、企業、札幌国際プラザ等で設置した実行委員会に対し、本市から負担金を交付するものである。 【開催概要】 開催期間:11月下旬～12月下旬 会場:札幌大通公園2丁目(ホワイトイルミネーション会場) 物品販売:ドイツおよび地元出店者によるクリスマスグッズやドイツ工芸品等の物販と、ワイン、ソーセージ、ドイツ菓子等の飲食販売 ステージイベント:コーラス、楽器演奏、ジャグリング等 屋内イベント:ドイツ文化の紹介、ドイツ語講座等			<年度別の事業内容>			
	各年度において、11月から12月の開催期間中に約30ブースの店舗において物品及び飲食物の販売を行う。また、ステージでの各種イベントを展開する。						
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	全体計画の内容に加え、「さっぽろホワイトイルミネーション」と連携して同日スタートとし、オープニングセレモニーを合同で開催することで話題性を高め、多くの来場者を得るなどにぎわいを創出した。開催場所については当初の予定どおり、大通公園2丁目ホワイトイルミネーション会場とし、開催期間は11月22日から12月16日までの25日間。出店数は21ブース。来場者数は45万1千人。			全体計画の内容に加え、「クリスマス市」の会場デザイン、運営に関する企画コンペティションを実施し、「クリスマス市」をさらににぎわいのあるものにするためのアイデアを募集する。また、来場者等からの多くの要望に応えてクリスマス・イブまで開催することとし、クリスマスの雰囲気さをさらに盛り上げることを狙う。開催期間は11月28日から12月24日の27日間。今年度も「さっぽろホワイトイルミネーション」と連携し、同日開催とする。会場は大通公園2丁目ホワイトイルミネーション会場。			
達成目標の状況							
項 目		18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (予 定)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
来場者数		44.6万人	45.1万人	46万人	47万人	48万人	50万人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
市民との連携、市民参加 本事業に関しては、食器洗浄ボランティア、通訳ボランティアとして多くの市民が参加・連携している。特に食器洗浄ボランティアについては運営についても市民団体に委託するなど、市民の積極的な参加を得ている。							
企業等との連携・協働 [資金協力]19年度は84団体から金銭的・物的協賛を得ている。 [人材協力] [情報協力] [その他の協力]							
市民・企業等が参加しやすい環境づくり ボランティアの公募や手軽なプログラムの用意など、多くの市民が参加しやすい工夫をしている。							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	5-4-1	事業名	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担金			
評価(成果)			課題			
<p>本事業は、2002年に本市とミュンヘン市との姉妹都市提携30周年を記念して当初1回で終了する予定で開始されたイベントであるが、初冬季の札幌を彩るイベントとして市民に支持され、次年度以降も継続して開催されるようになった。6回目の開催となった2007年度には45万1千人の来場者を迎え、市民をはじめ国内外から多くの観光客に足を運んでもらえるなど、観光イベントとしても定着しつつある。</p> <p>来場者アンケートでは「(イベント全体について)満足した」「来年も来たい」ともに90%を超える結果となっており、来場者がドイツ・ミュンヘンの雰囲気を楽しむことができる貴重なイベントとして好評を博しており、姉妹都市ミュンヘンを市民に周知することにもつながっている。</p>			<p>ミュンヘン市との姉妹都市提携30周年を記念して2002年に一度限りのイベントとして行われたものが、好評につき継続されてきた経緯があり、このイベントを今後継続して開催していくために、体制を簡素化するなど効率的な運営について検討する必要がある。</p>			
今後の事業の予定・方向						
<p>今後の継続的な実施を見据え、体制の簡素化など、運営の効率化を図るとともに、民間活力の積極的な導入を模索して札幌市からの負担金を逡減していく。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	11,000	10,000	10,000	9,000	40,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
一般財源	11,000	10,000	10,000	9,000	40,000	
予算	事業費	11,000	10,000	-	-	21,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債	0	0			0
	その他	0	0			0
一般財源	11,000	10,000			21,000	
実績	事業費	11,157	-	-	-	11,157
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債	0				0
	その他	0				0
一般財源	11,157				11,157	
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				52.9%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
[20年度]						